

スペイン語 I

第一回 発音①

母音

スペイン語の母音は a, e, i, o, u の五種類。「スペイン語の母音は日本語と一緒に発音しやすい」というようなことを言う人がいます。確かに共通点も少なくないですが、異なっている部分もあります。この部分をおろそかにすると、スペイン語っぽく聞こえない、ということになりますので、特に注意していきましょう。

a

これは日本語の「あ」と同じ音と考えて大丈夫です。 abril ‘April’, andar ‘to walk’, amigo ‘friend’

e

こちらも日本語の「え」で OK。 enero ‘January’, en ‘in, on’, este ‘this’

i

日本語の「い」よりも唇を横に引いて発音しましょう。 vida ‘life’, idea ‘idea’, inmigrante ‘immigrant’

o

日本語の「お」よりも口大きく開け、唇を丸くして発音します。 ojo ‘eye’, cómo ‘how’, todo ‘all’

u

日本語の「う」と大きく異なる。唇を丸くし、前に突き出すようにして発音。 uno ‘one’, mucho ‘much, many’

二重母音

スペイン語をスペイン語らしく発音するには**二重母音**を正確に発音することが不可欠です。

まず、前提ですが、これまでに見た母音は**強母音 (a, e, o)**と**弱母音 (i, u)**に分類できます。ここで言う強弱は、音として強いか弱いかということです。例えば、「大きな声を出せ」と言われた時、我々が言う（叫ぶ？）のは「あー」か「おー」、せいぜいひねっても、「えー」でしょう。大きな音、強い音を出すのに「いー」とか「うー」とは言いません。このように、i, u は音として a, e, o より弱いのです。

そして、**二重母音**とは、**強母音と弱母音、または弱母音が二つ並んだ時に母音同士がくっついて、一つの母音のように発音されることを指します**。例えば、以下の単語を発音することにします。

bueno ‘good’

u が弱母音、e が強母音なので、線を引いた ue は二重母音です。従って、この語を発音するときに、bu-e-no の様に**三拍で発音してはいけません**。思い出してください。二重母音とは「一つの母音の様に発音される」のです。従って、この語は、bue-no という風に**二拍でいきましょう**。以下の語で練習してみてください。

強 + 弱 ¡OJO! 語末の“y” は “i” と同じものと考えてください。

aire ‘air’, hay ‘there is/are’, causa ‘cause’, seis ‘six’, rey ‘king’, euro ‘euro’, hoy ‘today’

弱 + 強

Alicia ‘人名’, vuelta ‘return’, agua ‘water’, servicio ‘service’, bien ‘well’, antiguo ‘ancient, old’

弱 + 弱

ciudad ‘city’, ruido ‘noise’, muy ‘very’

子音

b

英語の b のように破裂しない。むしろ日本語のバ行の音。boca ‘mouth’, bueno ‘good’, bien ‘well’

c

後ろの母音が a, o, u もしくは子音なら k の音。casa ‘house’, cosa ‘thing’, cuna ‘cradle’

後ろの母音が e, i なら θe, θi (スペイン)、もしくは se, si (中南米)。cena ‘dinner’, cinco ‘five’

いずれにせよ、日本語の「シ」の音はスペイン語には存在しない。×シンコ。○スインコ

d

語頭・語中なら英語の d の様に発音してください。dar ‘to give’, dime ‘tell me (命令)’, dónde ‘where’

文末の d はほぼ発音しないか、θ。universidad ‘university’, Madrid ‘地名’

f

英語の f の音と同じ。favor ‘favor’, furioso ‘furious’, final ‘final’

g

後ろの母音が a, o, u, 子音ならガ行で。gato ‘cat’, gobierno ‘government’, gloria ‘glory’

後ろの母音が e, i, なら かすれたへ・ヒ [x]。日本語にも英語にもない音。general ‘general’, girar ‘to turn’

後ろの母音が ue, ui なら ゲ・ギ。guerra ‘war’, guión ‘hyphen, script’

h

書くけど読まない。hijo ‘son’, hablar ‘to speak’, Alhambra ‘固有名詞’

j

後ろの母音に関係なく常に [x] (g の項を参照)。José ‘人名’、 Japón ‘Japan’, japonés ‘Japanese’

k

カ行で大丈夫。ただし、スペイン語では外来語にしか用いられず、あまり見ることはない。 karate, kilo

l

英語の l ではない。舌先を上歯茎にべったりくっつけて発音。lago ‘lake’, lado ‘side’, loco ‘crazy’

ll

地域差アリ。ジャ行で発音されることが一番多い。llorar ‘to cry’, llamar ‘to call’, llegar ‘to arrive’

m

英語の m, 日本語のマ行と同様の音。mejor ‘better’, mano ‘hand’, muro ‘wall’

n

英語の n, 日本語のナ行と同様の音。no ‘no, not’, nada ‘nothing’, nuevo ‘new’

ñ

スペイン語に固有の文字です。ニャ行で発音。niño ‘baby よりの kid’, España ‘Spain’, español ‘Spanish’

p

英語の p の様に破裂しない、息もれもしない。日本語の パ行に近い。puro ‘pure’, pelo ‘hair’, pero ‘but’

q

後ろに来る母音は、ue か ui のみ。ケ・キと発音。queso ‘cheese’, qué ‘what’, quién ‘who’

r

語頭なら巻き舌。radio ‘radio’, robar ‘to steal’, romper ‘to break’

語中、語末なら日本語のラ行に近い。英語の r とはかなり異なる。sonrisa ‘smile’, caro ‘expensive’

語中でも rr と続いた場合は巻く。perro ‘dog’, carro ‘car (主に中南米)’, correr ‘to run’

s

日本語のサ行に近いが、「シ」の音はない。「スイ」。salir ‘to leave, hang out’, sol ‘sun’, siguiente ‘next’

t

日本語のタ行で発音する。tomar ‘to take’, tener ‘to have’, tiro ‘shot’。ただし、ti は「ティ」、tu は「トゥ」。

v

英語の v とは異なり下唇は嚙まない。むしろ、日本語のパ行に近い。故に、スペイン語では b/v は同じ音。volar ‘to fly’, vacación ‘vacation’, voluntad ‘will (「意思」の方)’

w

外来語にのみ使用。基本的にワ行で OK。

WhatsApp ‘Line のようなチャットアプリ’, wasapear ‘WhatsApp でやりとりをする’

x

語中なら ks。examen ‘exam’, exacto ‘exact’

語頭、子音の前では s の音で。xenofobia ‘xenophobia’, explicación ‘explication’

y

語末、一文字だけで使うなら i と同じ音。y ‘and’, soy ‘I am’.

後ろに母音が来る場合はジャ行（地域差アリ）。ya ‘already’, mayo ‘May’

z

スペイン語にザ行の音は存在しません。スペインなら θ 行、中南米なら s 行で発音します。

cazar ‘to hunt’, zurdo ‘left-handed’, voz ‘voice’

第二回 発音②

二重子音

スペイン語、というか、日本語以外の多くの言語をそれらしく発音するためには二重子音を正しく発音することが大切です。二重子音は **bl, pr, tr** など、子音 + **r/l** の並びを指します。こうして書くと単純なのですが、日本語母語話者にとっては注意事項だったりします。日本語には基本的に二重母音が存在しないためです。日本語では子音のあとに来るのはほぼ常に母音で、子音が来ることはありません。

田中 > ta na ka

菊池 > ki ku chi

西川 > ni shi ka wa

鈴木 > su zu ki

そんな我々日本語母語話者ですから、外国語を話すときに、いれてはいけないところに母音を挟みがちです。例えば、Eldred というのは英語圏の人の名前ですが、日本語的には、e lu do re ddo となります。このように、子音の後に几帳面に母音を入れるのはやめましょう、というのが本節の主旨です。子音が連続するところは一気に読み上げる。という意識で、以下の二重子音を含む語を発音してみましょう。

sobre ‘about’

→ ×so bu re

entre ‘between, among’

tras ‘after, behind’

presenter ‘to present’

tratar ‘to treat’

hablar ‘to speak, talk’

trabajo ‘job, (home)work’

centro ‘center’

problema ‘problem’

これと同じ理由で、日本人が苦手なことの一つに「子音で終わる」があります。日本語で語が子音で終わることはほぼありませんが、スペイン語を含む多くの言語ではしょっちゅうです。ここを意識しておく、発音が劇的によくなりますので意識するようにしましょう。

libros ‘books’

→ ×liburosu

mesas ‘tables’

casas ‘houses’

final ‘final’

ser ‘to be’

poder ‘can’

Madrid ‘地名’

universidad ‘university’

actividad ‘activity’

アクセントのルール

英語同様、スペイン語でも多くの語には強く読むべき箇所、アクセントがあります。英語は、アクセント位置に関する規則はあるようなないような……という言葉でそれ故に、学習者的には頭の痛いポイントでした。「以下の語のアクセント位置を選びなさい」みたいな問題を出されたこともあるでしょう。ところが、スペイン語ではアクセント位置については極めて明快かつシンプルなルールがあり、それさえ理解してしまえばどんな語でもアクセント位置がすぐにわかるようになります。これを学べば、とりあえず、スペイン語の発音について学ぶこと一段落です。そのスペイン語アクセントルール、以下の三つのみです。

1. n, s 以外の子音で終わる語は最後の音節にアクセント
2. 母音、n, s, で終わる語は最後から二番目の音節にアクセント
3. 1, 2 のルールに合わない音節にアクセントがある場合、その音節にアクセント記号を打つ

簡単ですね。ですが、音節という用語を初めて見たという人は多いかもしれません。そして、ルールからわかるように、この音節という概念は、スペイン語のアクセントルールと密接に結びついています。そんなわけで、音節についてまず学びます。

音節

音節とは、ようするに音のまとまり、区切りのことです。文を意味ごとに区切ったものが語ですが、語はさらに音節に区切ることが出来ます。例えば、casa という語は、ca-sa という風に。音節の中心は母音です。母音と隣り合う子音で区切っていくというイメージを持っておきましょう。

amigo > a-mi-go

amigos > a-mi-gos

papel > pa-pel

tosta > tos-ta

identidad > i-den-ti-dad

grande > gran-de

ポイントになるのは、二重母音の扱いです。例えば、bueno という語を音節に分けるとしたらどのように分けますか？ありがちなミスが以下。

× bu-e-no

ちゃんと、母音を中心に区切っているわけですから、この分け方でよさそうに見えます。何でダメなのでしょう。わからない人は前回分を復習しておきましょう。そうです、ue が二重母音だから上の分け方ではダメなのです。前回分にも書きました通り、二重母音は一つの母音としてカウントするのです。なので、bueno は以下の様に分けることになります。

bue-no

数こなしておきましょう。前回、二重母音で見た語を音節に分けると以下ようになります。ちなみに、一つの音節からなる語も存在します。

aire > ai-re hay > hay causa > cau-sa seis > seis rey > rey euro > eu-ro hoy > hoy

Alicia > A-li-cia vuelta > vuel-ta agua > a-gua servicio > ser-vi-cio bien > bien antiguo > an-ti-guo

ciudad > ciu-dad ruido > rui-do muy > muy

アクセント位置

さて、先に挙げたアクセントルールを音節の知識を踏まえてみていきましょう。

1. n, s 以外の子音で終わる語は最後の音節にアクセント

n, s 以外の子音で終わる語、とは例えば以下のものです。最後の音節を強く読みましょう。

hacer ‘do, make’ querer ‘want’ español ‘Spanish’ reloj ‘watch, clock’ comunidad ‘community’

2. 母音、n, s, で終わる語は最後から二番目の音節にアクセント

該当する語として以下のものがあります。

año ‘year’, parte ‘part’, España ‘Spain’, caso ‘case’, tiempo ‘time’, forma ‘form’

antes ‘before’, mes ‘month’, hablan ‘they speak’, tienen ‘they have’, fin ‘last’

このように、スペイン語のアクセントルールは単純明快で初めて見る語であってもアクセント位置は少なくとも

もどこにあるかわかります。ただし、人間のやることですから例外もあります。つまり、子音で終わるのに前の方にアクセントのある語や、母音で終わっているのに最後の音節にアクセントのある語が存在します。そこで、ルール 3 です。

3. 1, 2 のルールに合わない音節にアクセントがある場合、その音節にアクセント記号を打つ

以下の語を見てみましょう。

café ‘coffee’ Japón ‘Japan’ información ‘information’ África ‘Africa’ comí ‘I ate’

こういう語は、例外と言えれば例外ですが、アクセント記号のついている音節を強く読めばいいだけなので、ルール 1, 2 の語よりもよっぽど簡単ということになるでしょう。

基数詞

言うまでもなく、数字はとても大事です。とりあえずこの段階で 0-10 を覚えましょう。

- 0 cero
- 1 uno
- 2 dos
- 3 tres
- 4 cuatro
- 5 cinco
- 6 seis
- 7 siete
- 8 ocho
- 9 nueve
- 10 diez

第三回 名詞の性・数

第三回、第四回の目標は a beautiful flower, the strong guys のような、冠詞、名詞、形容詞を使った長めの名詞句を作れるようになることです。そのために、本節ではスペイン語の名詞には性別があるということ、ならびに、名詞の複数形の作り方を学んでいきます。

「そんな簡単なことにわざわざ二回分費やす必要がある？辞書から欲しい単語拾ってきて適当に並べたらいいんじゃないの？」と思う人もいるでしょう。しかし、スペイン語の名詞句の組み立て方は日本語とも英語とも大きく異なっていますので、時間をかけるのです。とはいえ特に難しいことはありませんのでご安心を。

名詞の性

スペイン語のすべての名詞に、性があります。「女性」を表す名詞 *mujer* が女性名詞で、「男の子」を表す名詞 *niño* が男性名詞、というのはいわゆるわかりやすいと思いますが、無性別にも性があります。例えば、「本」は男で「テーブル」は女性名詞という風に、**スペイン語文法の第一歩は名詞の性の識別です**。名詞には冠詞や形容詞をつけますが、スペイン語では冠詞や形容詞は名詞の性に依って形を変えます。名詞の性がわからなければ、実質的に名詞を使うことができません。ですので最初にこれを学ぶというわけです。

ルール 1. **o** で終わる名詞は基本的に男性

año caso trabajo tiempo servicio centro

ルール 2. **a** で終わる名詞は基本的に女性

persona forma empresa vida hora

ルール 3. **-ción, -sión, -dad, -tad** で終わる名詞は例外なく女性

información acción pasión expresión

actividad universidad comunidad

ルール 4. **o** で終わるのに女性、**a** で終わるのに男性という名詞がある

o で終わるのに女性: *mano radio foto moto*

a で終わるのに男性: *día mapa problema tema idioma sistema*

ルール 5. 見た目からは性がわからない名詞多数。こういうものは辞書を引くしかない

vez parte lugar país mes

ルール 6. 生物を表す名詞は語尾の付け替えで男女を表し分ける

italiano / italiana americano/americana tío/tía

español ‘スペイン人男性’/española ‘スペイン人女性’ japonés/japonesa jugador/jugadora

例外: *padre/madre*

actor/actriz

rey/reina

príncipe/princesa

名詞の複数形

次に名詞の複数形の作り方を学びましょう。以下のルールがあります。

ルール 1. 母音で終わる名詞には -s おつける

persona > personas trabajo > trabajos amigo > amigos

ルール 2. 子音で終わる語には -es をつける

español > españoles lugar > lugares jugador > jugadores

ルール 3. z で終わる語は z を c に替えて -es をつける

vez > veces lápiz > lápices

以上が複数形を作るルールです。最後に、アクセント記号について補足します。 *estación* ‘station’ という語を複数形にすることにします。どうなるでしょうか。この語は子音で終わっているのに -es をつければよさそうです。なので、

× *estaciones*

でしょうか。が、これ、ダメなのです。正しくは、

estaciones

です。アクセント記号は不要となります。理屈としてはシンプルで、複数形の語尾 -es をつけたことで、アクセント記号をつけるまでもなく、*cio* のところにアクセントが来るからです（第二回参照）。スペイン語はこのあたり合理的で、「打たなくていいなら打たない」という発想になり、アクセント記号が不要となります。

逆もまたしかりです。例えば、*examen* ‘exam’ を複数形にするとします。これも子音で終わってますから、

× *examenes*

になりそうなものです。が、これだと減点です。単数形の *examen* の本来のアクセント位置はそもそもどこでしょうか。この語は *n* で終わってますので、後ろから二つ目の音節です。*examen* ですね。ところが、ここに複数形の語尾をつけると、*examenes* となります。するともうおわかりでしょう、これだとルール上、アクセント位置は *examenes* になってしまいます（*s* で終わる語も後ろから二つ目の音節を強く読むのでした）。**スペイン語は複数形にするくらいで、本来のアクセント位置は変えたくない**という言語です¹。ですから *examenes* と読みたくないわけですね。ところが *examenes* はルール上、*examenes* としか読めない……そこで最後の手段的にアクセント記号を用います。従って、*examen* の複数形、正解は、

exámenes

となります。アクセント記号にはこのような補正手段としての側面があるわけですね。この発想は、後々、別の文法事項を学ぶときにも出てきますので、頭の片隅に入れておいてください。

¹ *carácter* > *caracteres* のように、複数形にするとアクセント位置が変わる単語もあるにはありますが、極々少数です。

第四回 冠詞と形容詞

今回は、名詞に冠詞と形容詞をつけて長い名詞句を作ります。スペイン語の名詞に性別があるというのは目新しかったと思います。そして、今回のポイントは、**冠詞と形容詞にも性別、そして単数形と複数形がある**というものです。慣れればどうということはないので、じっくりいきましょう。

冠詞

英語同様、スペイン語にも不定冠詞と定冠詞があります。不定冠詞からみていきましょう。英語の不定冠詞 a, an ですが、スペイン語では [男性・女性]×[単数・複数] で四パターンあります。

	男性	女性
単数	un	una
複数	unos	unas

スペイン語の不定冠詞

これらの形を名詞に応じて使い分けましょう。冠詞は名詞の性・数に合わせるということです。例えば、perro ‘dog’ に不定冠詞をつけて、英語の a dog にあたるフレーズを作るとします。この時、まず、名詞の性・数に注目しましょう。perro ですからこの名詞は男性・単数です。なので、冠詞も男性・単数の un を使います。un perro が正解。manzana ‘apple’ の場合、この名詞は女性・単数です (a で終わっていますから)。従って、an apple は una manzana となります。

また、不定冠詞の複数形、unos, unas ですが、この二つには**結構意味が強めにあります**。英語の some, about にあたるものと考えてください。un perro は「(不特定の) 犬」というニュアンスで、冠詞そのものの意味はほぼありません。ですが、複数形、unos perros は「数匹の犬」という風に、unos は結構強めに主張しています。

次に定冠詞をみていきましょう。こちら、性別、単数・複数の区別がありますので、形としては四通りあります。

	男性	女性
単数	el	la
複数	los	las

スペイン語の定冠詞

こちら、名詞の性・数に応じて使い分けます。the dog なら el perro, the apple なら la manzana です。複数にするなら、los perros/las manzanas となります。そして、**定冠詞にはアクセントがない**。ということも覚えておきましょう。この定冠詞にアクセントをつけて読む、話すとともに妙です。

定冠詞と不定冠詞の使い分け、というのはみなさん気になるころだと思いますが、現段階では、定冠詞は「その」、不定冠詞は「とある」くらいのふんわりした理解で大丈夫です。実際に、スペイン語を読んだり書いたりしていくなかで、適宜その使い分けを説明していきます。とりあえずは、冠詞というのはくっつく名詞の性・数に応じて形が変わるのだなということがわかっていただければ OK です。

形容詞

次に形容詞について説明します。まず、非常に大事なポイントですが**スペイン語では基本的に、形容詞は名詞の後ろに置きます**。例えば、the white dog をスペイン語にしてみましょう。the dog は el perro でいいのでした。そして、white は blanco です。日・英語的発想なら、

× el blanco perro

となりそうですが、これはダメです。大事なことから繰り返しますが、**スペイン語では基本的に、形容詞は名詞の後ろに置きます**。ですので、

el perro blanco

が正解。この名詞 形容詞という語順はなかなか目新しいものがあると思いますので、たくさん練習して慣れてください。

さて、そして、**スペイン語では形容詞にも男性・女性形、複数形があります**。冠詞の場合同様、形容詞をつける名詞の性・数にあわせます。形容詞の性数変化のパターンですが、名詞とほぼ同じです。

1. 語尾が -o の形容詞は -a に替えれば女性形: perro blanco/manzana blanca
2. 語尾が -o 以外の形容詞には女性形がない: perro grande/manzana grande perro general/manzana general
3. 母音で終わる形容詞なら -s, 子音で終わるものは -es をつければ複数形: perros blancos/perros generales

名詞の前に置く形容詞

このように、スペイン語では形容詞は名詞の後が基本ですが、名詞の前に置けるものがあります。よく使う形容詞ほど、前置きOKなことが多いので、押さえておきましょう。

基本パターンを破り、形容詞を名詞の前に置くことで「話し手にとっての」という感じがでます。例えば、以下のペアは使っている単語は同じですが、意味が違います。

la casa nueva (新しい家) / la nueva casa (話し手にとって新しい家。引っ越し先等)
un amigo viejo (年を取った友人) / un viejo amigo (話し手にとっての昔からの友人)
un hombre pobre (貧しい男) / un pobre hombre (話し手にとって気の毒な友人)

bueno 'good', malo 'bad' も価値判断を表す形容詞ですから、基本的に名詞の前に置くのが基本です。更に、この二つは、男性・単数の名詞の前に置かれる場合、語末の母音が落ちて **buen, mal** となります。

buen hombre/buena mujer mal hombre/mala mujer

grande も注意しておきましょう。これも名詞の前後で意味が変わるタイプの形容詞です。更に、grande は単数名詞の前では最後の音節が落ちて **gran** です。いかにもテストに出そうですね。bueno とは違って、女性単数名詞の前でも **gran** になるのがポイント。

gran hombre (偉大な男) / hombre grande (大きい、大柄な男) gran actriz (偉大な女優) / actriz grande (大柄な女優)

第五回 動詞の活用 現在形

今回は悪名高い動詞の活用を学びます。英語の現在形、主語が三人称単数の場合は動詞の語尾に *-s, -es* なりをつけました。このように、**主語の人称・数に応じて動詞の形を変化させることを活用**といいます。英語では三人称単数の場合以外は同形ですが、スペイン語では（というか英語以外の欧州の言葉は）それ以外の主語にも固有の形に動詞を活用します。つまり、現在形であれば、**動詞の活用が[一人称・二人称・三人称]×[単数・複数]の計 6 パターンがある**ということです。

「なぜそんな面倒なことを？」とお思いのむきもあるでしょう。ただ、この活用を使いこなせると、それはそれで便利なこと、恩恵も多いです。もっと言ってしまえば、スペイン語の文法は初期段階では英語と似たポイントが非常に多く、そんなに難しいことはありません。躓くとしたらこの動詞の活用なのです。こればかりは反復練習が必要ですから、ちゃんと練習すればできるようになるということです。

主語の代名詞

動詞は主語の人称と数に応じて活用されるわけですから、最初にスペイン語の主語代名詞を覚えてしまいましょう。以下のようにまとめられます。

	単数	複数	備考
一人称	yo	nosotros, nosotras	男だけ、男女ともにいる「私たち」なら nosotros。女性だけなら nosotras。
二人称	tú	vosotros, vosotras	tú のアクセント記号を忘れないこと。 vosotros は中南米ではほぼ使わない。
三人称	él, ella, usted	ellos, ellas, ustedes	él は he, ella は she。 usted, ustedes は「あなた、あなた達」。 意味的には丁寧な二人称だが、三人称。

スペイン語の主語代名詞

参考

備考欄にも書きましたが、tú/vosotros と usted/ustedes の違いは丁寧さです。前者が友人や家族、親しい間柄で使う「君（達）」で、後者が目上の人や初対面の人相手に使う「あなた（達）」です。最近、面識のないドミニカ出身の方とメールでやりとりをしていました。何回目かのメールにこんなことが書かれていました。

Disfruto el trato informal y si gusta podemos tutearnos.

‘くだけた感じでいいですよ。よければ tú で呼び合しましょう’²

こんな形で関係性が変化していくわけですね。文中の tutearnos, 原形は tutear ですが、意味は「tú で呼ぶ」です。非常にスペイン語っぽい表現です。

現在形の活用

それでは実際に、動詞の活用法を学んでいきます。最初のポイントは**動詞の原形の語尾を見る**です。スペイ

² この文の si gusta という言い回しもかなりくれています。母語話者じゃない限り真似しないのが吉。

ン語の動詞原形は必ず、-ar, -er, -ir のいずれかで終わります。これらの内、どの語尾で終わっているのが大事なのです。なぜなら、活用の仕方がこの語尾に応じて変わるためです。

-ar で終わる動詞には hablar 'to speak, talk', estudiar 'to study', dejar 'to let' 等があります。語尾が一緒ですから、これらは同じ活用の仕方をします。具体的に hablar を活用してみましょう。

1. 活用語尾を覚える

スペイン語の場合、動詞の活用とはより具体的に言えば、主語に応じて動詞の語尾を付け替えることです。というわけで、付け替えるべき語尾を最初に覚えます。

-ar 動詞の活用語尾

yo	-o	nosotros	-amos
tú	-as	vosotros	-áis
él	-a	ellos	-an

2. 原形の語尾を落とす

今覚えたこの活用語尾はそのままでは動詞の原形につきません。動詞の原形がこれらの活用語尾に合うように加工する必要があります。まあ、ただ、語尾の -ar を落とすだけのことですが。hablar の -ar を落とすと、habl という形が得られます。後はこの habl³ に先ほどの活用語尾を主語に応じて付けていくだけです。

3. 活用語尾をつける。

例えば、yo が主語の場合の活用語尾は -o です。これを habl につけると、hablo となります。できました、これが動詞を活用するということです。同様に、tú が主語なら hablas となりますし、「彼が話す」と言うのなら、habla です。一応、活用表を載せておきます。

hablar の活用

yo	hablo	nosotros	hablamos
tú	hablas	vosotros	habláis
él	habla	ellos	hablan

以上です。-ar で終わる動詞は基本的に、全てこの手順を踏めば活用できます。暗記しなければならないのは語尾くらいです。「動詞の活用を勉強する」というのは、上のような活用表をひたすら覚えていく作業ではありません。動詞は無数に存在しますので、一つ一つの活用を個別に覚えていくというのは明らかに非効率的、無茶です。動詞の活用で躓く人というのは多くの場合、こうしたストロングスタイルに走った人です。そりゃ嫌になりますよ。動詞の活用を勉強するというのは、「たった六種類の活用語尾を覚えて、状況に応じてそれらを素早く、正確に付け替える練習すること」と思っておいてください。

次に -er で終わる動詞の活用語尾を見ていきましょう。comer 'to eat', beber 'to drink', creer 'to believe, think' などですね。

³ 専門用語ではこの語尾を落とした形を語幹と言います。覚えなくてもいいですが、覚えておくと自習するとき何かと便利なので余裕があれば覚えておきましょう。

-er 動詞の活用語尾

yo	-o	nosotros	-emos
tú	-es	vosotros	-éis
él	-e	ellos	-en

これも、語尾の -er を落として活用語尾を適宜付け替えるだけで OK。

comer の活用

yo	como	nosotros	comemos
tú	comes	vosotros	coméis
él	come	ellos	comen

最期に -ir で終わる動詞です。vivir ‘to live’, abrir ‘to open’, escribir ‘to write’ 等があります。活用語尾は -er のものとほぼ同じです。更に暗記の負担が減りますね。

-ir 動詞の活用語尾

yo	-o	nosotros	-imos
tú	-es	vosotros	-ís
él	-e	ellos	-en

モデルとして vivir の活用表を載せます。くどいようですが、↓のような表を暗記しようとしてはだめです。

vivir の活用

yo	vivo	nosotros	vivimos
tú	vives	vosotros	vivís
él	vive	ellos	viven

第六回 現在形の用法・文を作る

前回、現在形の作り方を学びました。今回は現在形の使い方を学びます。そして、スペイン語の文を作るための材料が揃いましたので、実際に文を作ってみます。

現在形の用法

現在形の用法には以下のものがあります。

1. 現在の習慣、職務、能力などを表す

一番よく使う基本の用法です。

Como jamón serrano todos los días. 'I eat serrano ham every day.'

Ellos hablan japonés muy bien. 'They speak Japanese very well.'

Enseñamos español en la Universidad de Kyushu. 'We teach Spanish at Kyushu University.'

2. 現在行っている動作を表す

英訳とよく見比べてみましょう。

Ahora él ve la televisión. 'Now he **is watching** TV.'

このように、スペイン語の現在形は英語の現在進行形のように「今まさに行っている事」を表すことができます。スペイン語にも現在進行形が存在しますが、現在形も同様の出来事を表せますので、使う頻度はそこまで高くありません。

ちなみに、英語でも、状態・思考を表す動詞なら「今まさに行っている事」として使えます。

Yo **creo** que él **vive** en Madrid. 'I **think** that he **lives** in Madrid.'

3. 実現が確実な未来の出来事を表す

「未来形」という用語の最大の問題点は、そういう名前の活用形があることで、「未来のことを表すには常に未来形を使う」という発想が生まれてしまうことです。が、**スペイン語、そして、英語でも実現の可能性が高い未来の出来事は現在形で表すのが自然です**⁴。様々な研究者が指摘している通り、日本人は未来形を使いすぎます。それは「未来形」という文法用語に我々が親しみ過ぎていることと無関係ではないでしょう。ほぼ確実に起きるな、という出来事には現在形。これを心掛けるとグッとこなれたスペイン語・英語になります。

Mañana hablamos con él. 'Tomorrow we talk to him.'

Las rebajas acaban la semana que viene. 'The sale ends next week.'

文を作る

名詞句の作り方に加え、動詞の活用・使い方を学びましたので、すでに作ろうと思えば文を作れます。たかが三週間の学習と卑下するなかれ。まあまあ長めの文だって作れます。スペイン語は語順が自由と言われますし、

⁴ 英語はさらに、現在進行形が未来を表すのに用いられます。I'm visiting you tomorrow.

実際その通りなのですが、とりあえずは難しく考えず、英語の様に SVO でやってみましょう。

Los gatos blancos comen pescados frescos. ‘The white cats eat fresh fish.’

Las buenas estudiantes aman perros grandes. ‘The good female students love big dogs.’

これまでに出てきた語だけで作っているのが実に教科書らしい無意味な文なのはご愛嬌ということで。何が言いたかったかという、辞書などを適宜使えば既にそれなり情報量のある文を書けますよ、ということです。その上でいくつか気を付けて欲しいポイントを挙げておきます。

ポイント 1. スペイン語の主語には基本的に限定詞が必須

英語の場合、主語に限定詞、つまり、冠詞などがつかないケースが割とよくあります⁵。Olive oil is good for health. のように、不可算名詞の場合は特に無冠詞になりがちです。ですが、**スペイン語で主語が普通名詞なら限定詞は必須です**。先ほどのオリーブオイル例文だと以下のようにになります。

El aceite de oliva es bueno para la salud.

ポイント 2. 人が直接目的語なら前置詞 a をつける

直接目的語というのは日本語の「～を」にあたる目的語です。例えば、I love María. をスペイン語にするとします。love にあたるのは、amar です。これを正しく活用して、

× Yo amo María.

よさそうですが、ダメです。スペイン語は、「誰々を」という場合には、その人の前に前置詞 a (英語の to に概ね相当)、を置かなければなりません。上の文の場合、María は人なので、

Yo amo a María.

が正解。このルールは英語にはないルールなので、とかく忘れがちです。気を付けましょう。ちなみに、人ではない場合は a は不要です (Las buenas estudiantes aman perros grandes.)。これも、「なんでこんなもん作っちゃったのよ系ルール」ですが、これのおかげで後々、文章が読みやすいという体験ができます。とりあえず無理やりにでも納得しておいてください。

ポイント 3. 間接目的語には常に前置詞 a をつける

間接目的語というのは、大体日本語の「～に」に相当するものです。例外が割とありますが、とりあえずは。こういうものには人だろうが物だろうが、常に前置詞 a をつけましょう。こちらは英語の to に同じ使い方がありまからわかりやすいと思います。

Yo escribo una carta a María. ‘I write a letter to María.’
直接 間接

Añadimos aceite a la cazuela. ‘We add oil to the pot.’
直接 間接

⁵ 冠詞や数詞、所有代名詞 (my, your) をまとめて限定詞と呼びます。

否定文と疑問文

スペイン語のいいところは否定文と疑問文の作り方が簡単なところです。否定文から行きましょう。no という語が、don't/doesn't として機能しますので、これを動詞の直前に置くだけです。

No hablo español. 'I don't speak Spanish.'

Los estadounidenses **no** comen pulpo. 'Americans don't eat octopus.'

疑問文ですが、こちらも簡単。平叙文を ¿? で囲む。それだけ。話している時は大げさに語尾を上げてください。

Hablas español. > ¿Hablas español?

Ellos viven en Barcelona. > ¿Ellos viven en Barcelona?

語順を、動詞 + 主語 に替えてもいいです。特に意味は変わりません。スペイン語の語順が自由と言われる所以です。

¿Habla usted español?

答え方も簡単。Yes なら sí, no なら no です。

Sí, hablo español./No, no hablo español.

付加疑問文を覚えて終わりにしましょう。平叙文の最後に、¿verdad? ないし、¿no? をつけるだけです。

Estudiáis mucho, ¿verdad?/¿no? 'You guys study a lot, don't you?/right?'